

# 「左右両側から批判される『永遠の0』」

## ① ラノベ（ライトノベル）批判

下記②にある「戦記もの」等からの“引用”部分以外、つまりは百田氏オリジナルの文章について、文体・構成・設定・人物描写等が「稚拙」「浅薄」「雑」「ありきたり」で、「文学作品として軽すぎる」という批判。

## ② パクリ批判

零戦の元パイロットで撃墜王と言われた坂井三郎氏の著書『大空のサムライ』をはじめとする戦記ものやドキュメンタリー作品からの「度を超えた引用」「リライト」「パクリ」という批判。「小説の80%が資料からの引用、転用、合成、翻案」「いろんな戦記ものをかき集め、そのカッコいいところをつなぎ合わせたもの」など、「パクリ」に関する厳しい批判が多い。構成に関しては浅田次郎氏の『壬生義士伝』との類似を指摘する意見も。

## ③ 軍の上層部批判に対する批判

旧日本軍の上層部に対する批判を明記したことに対して、「百田氏の歴史認識が自虐史観一色」「特攻隊員は善で、特攻を命じた軍上層部は悪というのは短絡的だ」という意見。

## ④ 戦争賛美

本文参照。

## ⑤ 宮崎駿氏による「捏造批判」

「今、零戦の映画企画があるらしいですけど、それは嘘八百を書いた架空戦記をもとにして、零戦の物語を作ろうとしているんです。神話の捏造をまだ続けようとしている。『零戦で誇りを持とう』とかね。それには僕は頭にきてたんです。子どもどころからずーっと！」「相変わらずバカがいっぱい出てきて、零戦がどうのこうのって幻影を撒き散らしたりね。戦艦大和もそうです。負けた戦争なのに」（『CUT』2013年9月号の宮崎氏のインタビュー記事より）

私はこれらを全否定するほど『永遠の0』を全面的に支持しているわけではありませんが、それぞれの意見に対してはこう思います。

①については好みの問題も大きいでしょうし、本作は百田氏の小説家としてのデビュー作ということを考えれば、大目に見ることもできるのではないのでしょうか。②については、2006年の発表時から今日まで「盗用」などで訴えられていませんので、あくまでも法的にはありますが「問題なし」ということになります。③に関しては、私が知る限りでは、数多くの戦史や戦記に書かれている内容と同じで、百田氏が大きめに軍部を批判しているようには思えません。⑤は、零戦の設計士が主人公の『風立ちぬ』が公開されることもあり、「一緒にされてはたまらん」という宮崎氏の怒りがこのような厳しい一言になったのでしょう。しかし、批判をするのであれば作品を観てから、というのが最低限のマナーのような気がします。